



2018年11月7日

各 位

上場会社名 古河機械金属株式会社
 代表者 代表取締役社長 宮川 尚久
 (コード番号 5715)
 問合せ先責任者 経理部長 三影 晃
 (TEL 03-3212-7021)

2019年3月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2018年8月6日に公表いたしました2019年3月期の通期連結業績予想値を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期(2018年4月1日～2019年3月31日)の連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (2018年8月6日発表)	百万円 169,000	百万円 7,000	百万円 6,100	百万円 4,000	円 銭 99.00
今回修正予想(B)	174,000	7,000	6,100	4,000	99.00
増減額(B - A)	5,000	0	0	0	
増減率(%)	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	167,695	7,820	8,105	4,774	118.16

2. 連結業績予想の修正の理由

通期の連結業績予想については、前回(2018年8月6日)発表の業績予想における前提を、銅価6,500米ドル/トン、為替105円/米ドルとしていましたが、直近の動向を考慮し、下期では、銅価6,200米ドル/トン、為替110円/米ドルへ変更しました。

売上高については、機械事業では、主として、破碎機、造粒機などマテリアル機械の増収を見込む産業機械部門、主として、移動式クレーン構造規格の一部改正に伴う駆け込み需要による増収を見込むユニック部門で増収となる見込みです。一方、ロックドリル部門では、国内のトンネルドリルジャンボにおいて出荷増が見込まれますが、海外向け油圧クローラドリルの出荷減により減収となる見込みです。また、金属部門では、電気金の生産数量の増加により増収となる見込みであり、金属部門の増収を主因として、連結全体の売上高を上方修正しています。

営業利益については、金属部門では、銅および金価格の前提条件見直しにより減益を見込んでいる一方、産業機械部門とユニック部門では、増収による増益、また、ロックドリル部門では、国内でのトンネルドリルジャンボの出荷増などによる増益が見込まれるため、連結全体の営業利益は前回発表どおりとしています。なお、内外の不透明な情勢から決算期末日における為替相場が見通せないため、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、修正していません。

(注) 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上